

じどうせいとよう  
児童生徒用

# とよの 授業スタンダード

とよのんが  
授業の進め方を  
説明するよー



じゆぎょうまえ  
授業前

## ・チャイム着席をする

ちやくせき

じゆぎょうじかん たいせつ  
☆授業時間を大切にするために、チャイム着席をしましょう。

じゆぎょう  
授業

## ・授業の始めと終わりのあいさつをする

じゆぎょう はじ お

☆あいさつをきちんと行うことで、学習に向かう気持ちが整います。



### ① 【やってみよう】(課題をつかむ)

か だ い

☆めあて(課題)を知り、これまでに学んだことをもとに「どうすれば解決できるか」  
みとお  
見通しをもちます。

### ② 【考えてみよう】(自力解決)

か ん が

じ り き か い け つ

☆課題に向き合い、ひとりでじっくり考えます。

☆考えたことをノートなどにしっかりかきます。



### ③ 【話し合おう】(学び合い)

は な あ

ま な あ

☆みんなで協力してお互いにわかったことや気づいたことなどを伝え合い、学びを深めます。



### ④ 【なるほど、わかった】(まとめ・ふりかえり)

☆学んだことを使って、確認問題や練習問題をします。

☆今日の学習をふりかえって、「わかった」「できた」ことを自分の言葉でまとめましょう。

じゆぎょうご  
授業後

## ・次の授業の準備をする

つぎ じゆぎょう じゆんび

☆授業後は、次の時間の学習がチャイムと同時に始められるように準備をしておきましょう。

うち  
お家で

## ・学習した内容について復習や予習をしよう

がくしゅう ないよう ふくしゅう よしゅう

☆宿題を必ずしましょう。

☆学習したことはお家で復習をしたり、次の日の学習の予習をしたりしましょう。



## とよの 授業スタンダード(案)

### 『主体的・対話的で深い学び』の授業

～すべての教科学習や教育活動で「ことばの力を育てる」授業展開を意識して～

#### 授業づくり 4つのポイント

- ① 【めあての提示】 課題設定の提示
- ② 【教材との対話】 自力解決への支援
- ③ 【他者との対話】 ペア学習、グループ学習、全体交流
- ④ 【ふりかえりの設定】 学習のまとめ、ふりかえりの仕方

#### 『主体的・対話的で深い学び』の授業づくりのキーワード

- ◎ 『主体的』 — 興味・関心、向き合う、問いや思い・願いを持つ
- ◎ 『対話的』 — 考えをすり合わせる事、「教材との対話、他者との対話、自己との対話」ペア学習・グループ学習等
- ◎ 『深い学び』 — 学習したことをふりかえる、新たな学びや疑問に目がむく

#### ① 課題の設定

- ・子どもが自分の問題として受け止められるようないくつかの要素（驚き・不思議さ「エッ、どうして?」、必要感「何とかならないか」・不都合感「これじゃ、ダメだ」）を含んでいることが重要
- ・子どもの情意的側面に刺激を与え、興味や関心・意欲と言った学びへのモチベーションにつながる要素を含んでいることが重要です。

#### ② 自力解決への支援

- ・子どもが意欲的に向き合えないという状況がよくあります。それは、子どもが解決の糸口をつかめていないから。
- ・見通しをもたせるという活動が大切です。見通しをもたせることにより、「とにかくやってみよう」という試行錯誤の活動は、「こうすれば、こうなるのじゃないか」という活動へと変わります。
- ・「どうすればこの学習課題を解決できるだろうか」と考えるとき、これまでの経験や既に持っている知識、そして既習事項で解決の糸口をつかませます。

#### ③ ペア学習・グループ学習、全体交流

##### みんなで、考えの比較検討を行う

- ・一人で向き合う段階では、自分の考えを「かく」という活動で表現していきますが、このつなげる段階では、まず自分の考えを発表し友だちに伝えるという活動を行うので「話す」という活動が重要になってきます。
- ・発表させる考えは、比較検討させた結果、本時の目標に到達するように、必要な代表的意見を複数取り上げます。小学校の発達段階では、多くても5つぐらいに留めておきましょう。中学校では、もう少し多くてもよいかもしれません。
- ・いろいろな考えをすべて取り上げると比較検討が難しくなってきます。発達段階に応じて比較・検討可能な数を取り上げることが大切です。

#### ④ 学習のまとめ、ふりかえりの仕方

##### 授業のまとめは、一人ひとりのわかり方が現れるものである必要があります

- ・子どもたちは一人ひとり分かったこと、印象に残ったこと、大切だと感じたことに違いがあります。
- ・どのようなわかり方をしたのか、どこがわかっていないのか、把握できていないと、次時に適切な手だてが打てません。
- ・発達段階に応じたかかせ方を工夫するとともに、継続して取り組ませ、少しずつ育てていくことが大切です。また、的確にまとめられたものは掲示する等して、子どもたちによいまとめを示していくことも重要です。